

(庭園検討部会からのお知らせ)

1. 樹木台帳の配布と高木伐採について

樹木台帳の整理が終わり、お住まいの皆様方に配布しました。それに伴い主として高木（なかんずくケヤキ）を切らないで欲しいとの趣旨のご意見を多数頂きました。

ちょうど高木の整理を行っている時と重なり、ご意見を頂いたと思いますが、良い機会なので改めて樹木台帳とその活用、樹木を整理する手続きについて、詳しくご案内させていただきます。

- (1) 2頁：樹木台帳と公聴会に於ける樹木の整理（案）の関係
- (2) 3頁：サクラの伐採について（B 2 ランクの伐採に至る手続き）
- (3) 4頁：5号棟ケヤキ⑥の伐採（案）について（具体的な検討事例）

2. 北側内庭部分（主として駐輪場周りから棟の間）の整理について

先月お知らせしたようなところから着手を始めますが、暗中模索、少しずつ試行錯誤的に手を付けていくのかと思っています。ご意見を頂けるとありがたいと思います。

問題点の指摘、可能性についての打診、具体的な樹木ごとの保存あるいは整理、新しい樹木の植樹等なんでも結構です。（文書で事務所へ、あるいは理事を通してご提案ください）

先月、北側高木の扱いについて課題を指摘させていただきました。11号棟の方からナツメの保存についてご意見を頂きました。植えた場所は悪いのですが、まだ細く移植あるいは剪定して高さを制限して保存する可能性はあると思いますので、検討させていただきます。

(改善事例)



1号棟東側の南庭です。
ここは長い生垣で覆われていましたが、整理して芝を張りなおしました（昨年）。
土の部分はツツジを整理したところ（この6月低木剪定時）で、芝を張る予定にしています。

重複した低木の整理は費用削減の観点からも重要です。クチナシやアジサイなどもツツジの周りに散見されます。できるだけシンプルな庭園にしたいと考えます。

樹木台帳と公聴会に於ける

樹木の整理（案）の関係

平成7年～18年にかけて管理組合は4千万円程かけて大きな取り組みをしたことは既にご案内させて頂いていますが、その時に樹木台帳を作成しました。大変なご苦勞をして作った貴重な財産ですが、その後、皆様が植えた樹木を規制も登録もしてこなかったために、400本近くの未登録樹があることが判明しました。また、皆様に配布して活用頂くような機会を作ってこなかったためにそのような台帳があることさえご存じない方も多いのではないかと思います。

今回、未登録樹の洗い出しを行うと共に1昨年来行ってきた棟別の公聴会の時、ご意見を踏まえ、庭園の整理(案)と植樹(案)(植樹(案)は1～7号棟総てと他は1部棟のみ)を樹木台帳に落とした形でご提示(該当棟各戸配布)しました。この2年間、樹木の整理と植樹を進めていますが、それに沿っています。

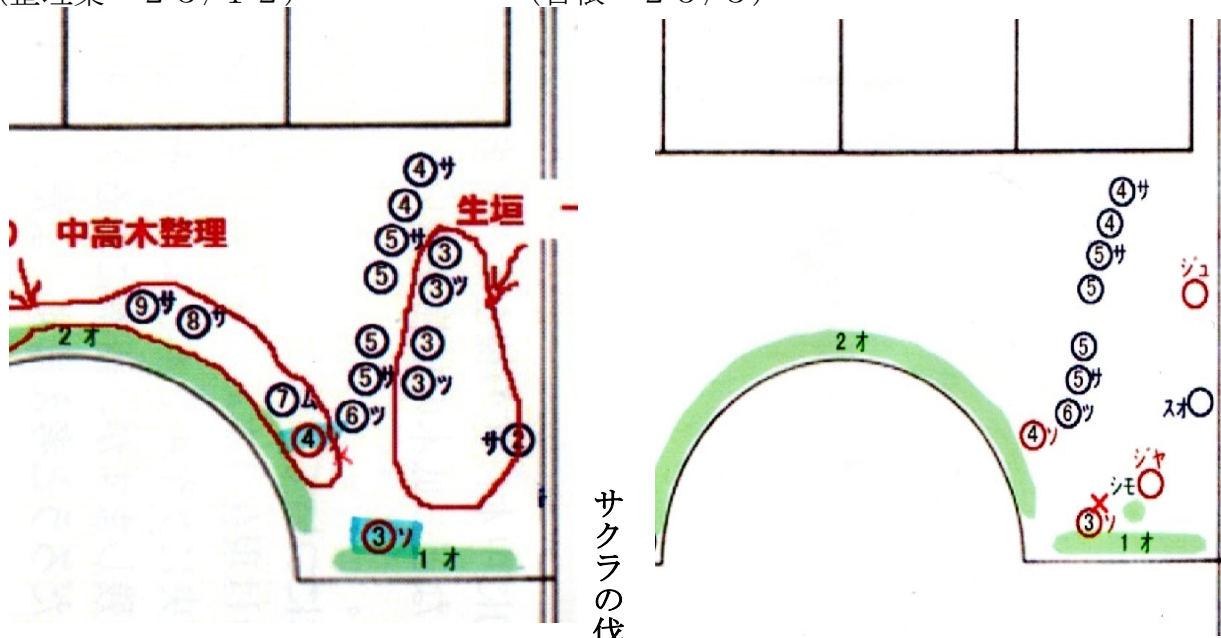
それを下に示します。(2号棟南庭東側の事例：左が整理案、右が今回配布した台帳)

両図の違いにご注目ください。

- (1) 左にある中木が整理され右ではなくなっています。これはこの案に基づいて昨年整理を行ったので、この3月末にはなくなっているからです。
- (2) 左には高木ソロの④番に×がついていますが、右では③番に×がついています。これは配布後検討して変更したものです。高木は昨年予算が不足したため、今年に伐採がずれこみ、ために、台帳では伐採予定となっています。
- (3) 左になくて右にある樹木が4本あります。いずれも樹木番号がついていませんが、ジャは植樹した”常緑ヤマボーシ”、他は未登録樹を登録したジュは”ジュンベリー”、スオは”ハナズオウ”シモは”シモツケ(緑部分で低木)”です。

(整理案 23/12)

(台帳 25/3)



採について (B 2 ランクの伐採に至る手続き)

庭園の整理は昨年来かなり進めて参りましたが、公聴会でお示した案をベースに進めています。中木以上については、事前に1本ずつビニールテープを巻き特定できるように示し、理事会で決裁頂き、近藤園に委託しています。作業の段取りもありますので一定期間の中で消化頂くようにしています。

中木については昨年行いましたが、高木は予算が不足したために今年にずらしました6月にテープを巻き、7月の理事会で決裁を頂き、近藤園には作業に入ってもらっていますが、3月末の状態を示す台帳には伐採予定として皆様に配布しました。

高木の伐採については第1次の庭園整備時にも大変苦労しています。550戸の共用資産で財産でもあります。維持費用も全組合員で負担しますから、共通の認識が頂けるように相当慎重に扱う必要があります。サクラを事例にお示しします。

サクラはほとんどがソメイヨシノですが、倒木も増え樹木診断の結果も悪く、植え替えの時期にきています。危険領域に入った樹木(B2判定)についても残して欲しいとのご要望を頂き、維持してきました。今までのように強剪定した場合、1年は棒に振るところから、状態観測も含め、毎年剪定するように改めました。

昨年2月頃12号棟の皆様から、サクラの枝が枯れるので伐採して欲しいとご要請がありました。確かに枯れ枝が落ちる危険性がありますが、号棟の皆様だけのご意見で切るわけにもいかず、半年待って頂いて、サクラの開花を待ち、24/8月号の本誌でご意見を紹介しました。（右写真に示す2本、両方B2判定です）

一方でサクラは剪定に馴染まない木とされていますので、必要最低限の剪定に変えることによって剪定費用が減ることも期待していましたが、いかにも植えている場所が悪く、相当程度剪定せざるをえないので、費用は3年に1回の強剪定に比べてかえって増加することも分かりました。

それを踏まえて、B2判定樹木は原則伐採させて頂くこととし、それにB1判定でも位置が悪い1号棟東北にあった木（未登録樹）と5号棟西側㉔を伐採する旨皆様方に広報誌（25/5）でお伝えし、7月の理事会決裁の中に織り込みました。

サクラを惜しむ方は多いのですが、ソメイヨシノのような大型樹はグリーンヒルの庭園が広いとは云え、適した樹木とは言えません。

小型の樹木を選びある程度の大きさになった時には植え替えるような覚悟を持った選択が必要だと思います。（現在小型樹木に変えて植え替えを進めています）

グリーンヒルも50年経ち、樹木も代替わりの時期にあります。今後も樹木診断や間引き等を適宜行い健全な庭園の維持に努める必要があることをご理解いただきたく。

5号棟ケヤキ㉔の伐採（案）について（具体的な検討事例）

今回頂いたご意見の中に、伐採予定になっているケヤキを残して欲しいとの要請がありました。検討する丁度良い事例だと思いますので、ご紹介しておきます。

（このような検討を公聴会で行い、現在はそれに基づいた実行の段階に入っているつもりでいましたが・・・）

下に示した㉔番のケヤキです。

ここはマユミ2本とヤブニッケイとケヤキが1本重なり合っているところです。

マユミとケヤキを伐採する前提に常緑ヤマボーシとハナノキを植樹しました。

樹間距離を考えると、ヤブニッケイとケヤキのいずれかを伐採したいと考えます。ここは棟との距離が短いところですから、ケヤキは11月頃の日照を心配しました。

（ケヤキは温暖化の中で落葉が12月まで伸びて新たな日照問題を生んでいます。詳しくは23/12月の広報誌をお読みください）

また、ヤブニッケイはグリーンヒルにはこの1本しかありませんが、シラカシ（第1次庭園整備時にケヤキの後継樹として植樹したと思われる）と同じ程度の大きさまで育っています。

ケヤキは本来グリーンヒルのような私的庭園には向かない木ですが、それが剪定費用に現れます。ちなみに、ケヤキの剪定費用は42千円に対しヤブニッケイは8千円です。

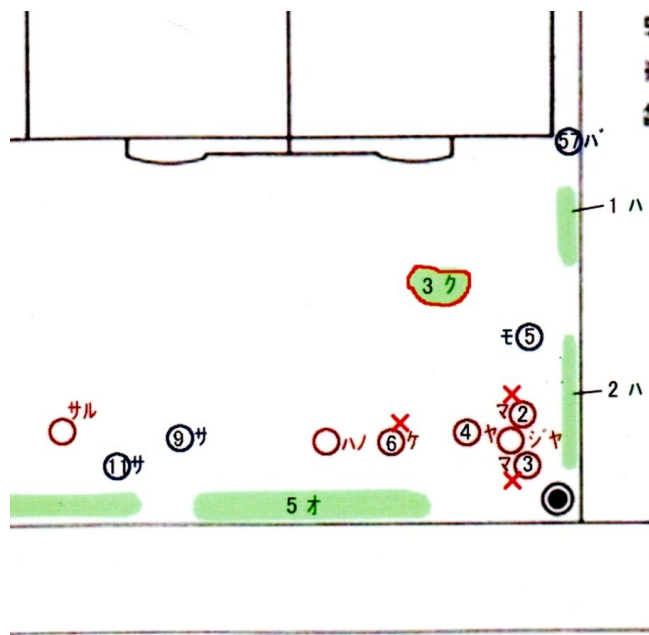


選択肢として次の3案があります。]

- (1) ケヤキを残しヤブニッケイを切る
- (2) ヤブニッケイを残しケヤキを切る
- (3) 判断を留保し次回剪定時まで待つ（剪定費用は重複するが3年判断を待つ）

日照条件を確認の上、5号棟の皆様のご意見も踏まえて理事会で決定することを提案しました。

なお、低木3ク（クチナシ）は整理予定となっていますが、6月（低木剪定時）に済ましています。



5号棟は西に1本ケヤキがありますが、当該東側ケヤキとの間にソロ3本がありました。ソロはB2・C判定となり、整理されたので新たに6本の植樹をしました。植樹した木はまだ小さくはありますが、できるだけ育った木を植えたつもりです。3年程度で相当景観も変われることを期待していますので、ケヤキは整理した方が良く判断してはいますが・・・。(ケヤキはサクラと違って丈夫な木で、まだ49本残っています)